

先天性内反足 1

座長：山 本 晴 康

このセッションは Ponseti 法と、従来法(山口太平ら, 中村千恵子ら), Kite 法(岡田慶太ら), 距骨下全周解離術(金城 健ら), 3次元同時矯正法(垣花昌隆ら)の成績の比較検討である。

いずれの報告も Ponseti 法の方がよかった。

山口太平らは Ponseti 法の方が側面胫踵角が良好で、軟部組織解離術を回避できる可能性が高いと報告した。中村千恵子らは Ponseti 法導入後に解離術を要する割合は減少したと報告した。

岡田慶太らは Kite 法では Ponseti 法と比較し再発率が高く、追加手術の割合が多かったが、Ponseti 法でも再発症例は増加傾向にあり、今後の検討を必要とすると報告した。

金城 健らは臨床所見は両群で同等であり、足根骨の障害は両群とも存在したが距骨下全周解離術群の方が高度であったと報告した。

垣花昌隆らは 3次元同時矯正法では前足部の回内変形の残存する例が散見されたが、Ponseti 法ではみられなかった。はじめに後足部に対する前足部の回内変形を矯正する Ponseti 法の手技がこれに関与していると報告した。